



1-2 ステップ2：情報の収集と分析

～事実とデータで課題を可視化する～

キーワード ・ SPO セット ・政策情報

●このテーマで目指すゴール

- ・既存の情報を集めて分析できる
- ・必要な情報を調査などで集められる
- ・現状とあるべき姿を可視化し変革に活用できる

患者さんからの質問

議員に提言書を持って行きたいのですが、私たちの問題意識を裏付ける情報は、どのように見つけたら良いのでしょうか。

●なぜ、情報の収集と分析か

ステップ1でみた社会課題の現況や、ステップ3で扱う目標の設定のためには、データをうまく活用できると有効です。データや情報はある程度、目的をもって集めることが重要で、ランダムな情報がただ多数集まっても、どのように解釈すればいいか、苦慮することがあります。また、現状だけが分かっても、これまでどのような対策が打たれたかが分からなければ、これからどうすべきかを知ることにはつながりにくいという側面があります。

活動計画や提案の策定に役立つ情報を集めることが重要です。世界保健機関（WHO）のがん計画策定ガイド（注1）、米国疾病管理予防センター（CDC）のがん計画策定ガイド（注2）、国際対がん連合（UICC）によるNPO（非営利組織）のための計画策定ガイド（注3）、厚生労働省による医療計画策定ガイドライン（注4）などを参考にすると、施策や計画を作成する過程の初期に、表1のような情報を集めることが大切と考えられます。

●情報の集め方

情報の集め方のコツを、いくつか参考に列挙してみましょう。

1. 情報を検索するなどして、下調べをする

まず、自分たちでウェブ検索結果、新聞記事検索結果、既存の計画や施策、研究報告書などを読むことで、知りたいことがどれだけ分かるか把握します。自力に頼りすぎず、以下の2、3、4をすることが大切ですが、同時に、自力で調べることをある程度しておかなければ、2、3、4がスムーズに進みません。だらだら調べることはせず、一定期間を区切って情報を集めたら、それに目を通した上で次に進みましょう。

2. 情報通の人に聞く

その分野やテーマに詳しい情報通に聞くことは、情報収集の近道です。行政担当者、医療提供者、ジャーナリスト、研究者などに「取材」できるようになりましょう。たまたま旧知の人に聞くだけでなく、その道の第一人者と目されている人で、自分たちのよき理解者になってくれそうな人物にヒアリングを申しこんでみましょう。

3. 情報をリクエスト（請求）する

計測されているにもかかわらず公表されていない情報などについては、その情報を持っていると思われる組織に提供や公表を請求してみるという方法もあります。議員に依頼して議員の情報請求権によって情報が得られるようにするのも一手です。

4. 調査（アンケート）する

自分たちが調査やアンケート（本書 4-10「アンケート調査」参照）することで取得できる情報の場合は、それを実行することも考慮すべきです。患者を対象とした、患者が置かれている状況、患者満足度などについてのアンケートなどは、患者団体の大きな役割ともいえますし、マスコミ・メディアもその結果を記事などにして取り上げてくれるかもしれません。

●情報の分析の仕方、活用の仕方

集まったデータや情報は分析・加工し、アドボカシー活動に有効な形にして使用してこそ、活用できるようになります。

1. カギとなる発見

社会課題の大きさなどの裏付けとなり、訴求力があるアドボカシー活動に活用できるデータが見つかったか、検討しましょう。

2. 必要政策の抽出への活用

既存の政策の現況がある程度理解できた段階で、現況施策を補う施策を抽出する作業を試みましょう。

3. 戦略プランの吟味

集まった情報で戦略プラン策定シート全体を吟味しなおします。想定していたことと異なる大事な情報が見つかった場合は、ときには「社会課題」「対象」「活動内容」などを変更し、全体を修正する勇気も必要です。

＜表 1＞収集すべき情報（例）

現況	対象とする疾病やテーマに関するいわゆる「SPO セット」の現況データを集め、どこに問題があるかを探ります。SPO とは、ストラクチャー（機能。人や施設の状況）、プロセス（過程。行われている医療サービスの状況）、アウトカム（成果。患者の健康や生活の質の状態など）のことです。詳しくは、政策評価に関する第 3 章を参照ください。
政策情報	これまで、どのような対策が打たれ、何が進歩して、何がしていないのか。それがどのように評価されているか、など。
患者、医療現場、地域の声	どのようなことに困っていて、どのように改善してほしいというニーズがあるのか、実際の声の情報を集めることは、アドボカシー活動では大切です。
ステークホルダー情報	「ステップ 4：対象の特定」「ステップ 6：連携相手の特定」などに必要な、この分野において、どのようなプレーヤーがどのような役割を果たしているかという情報などです。

（注 1）世界保健機関「国家がん対策プログラム～策定・管理ガイドライン」

（注 2）米国疾病管理予防センター「全米包括がん対策計画」

（注 3）国際対がん連合「非政府組織のための国家がん対策計画策定の資源」

（注 4）厚生労働省医政局長通知「医療計画について」

◇ さらに詳しく知りたい方のために

・世界保健機関(WHO)によるがん対策シリーズ「計画策定」

http://ganseisaku.net/who_planning.html (2013/10/28 アクセス)

・厚生労働省医政局長通知「医療計画について」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/iryuu_keikaku/dl/tsuuchi_iryuu_keikaku.pdf (2013/10/28 アクセス)